

令和5年度 第5回三木市学校給食審議会 議事録

- 1 開催日時 令和6年2月2日(金) 19時～20時30分
- 2 開催場所 三木市役所 5階大会議室
- 3 出席者
会長 水野 千恵
副会長 河原 正則
委員 松谷 真利
委員 中西 千津江
委員 前田 義典
委員 高橋 美野
委員 西未路 雅恵

(事務局)

教育委員会	教育長	大北	由美
教育総務部	部長	本岡	忠明
教育施設課	課長	荒田	知宏
教育施設課	給食係長	谷田	麗奈
教育施設課	給食係主査	塔田	邦美

- 4 傍聴者人の数 1人

- 5 議事

三木市学校給食に関する課題について

- ・三木市の農業の状況について(農業振興課)
- ・学校給食に関するアンケートの結果について

- 6 主な発言の要旨

農業振興課より「三木市の農業の状況について」説明

(会長)

ただいまの農業振興課の説明で、何かご質問はありますか。

では、私から1つ質問させてください。7ページで、農業経営体の規模も小さい3ha未満のところが多く、3ha以上、5ha以上のところが増え、平成22年に比べて少しずつ増えているというお話でし

たけれども、集落営農や組織化された規模の方は、外からいらっしやった方ですか。それとも、もともと三木市で農業をされていた方が若い世代、2代目が規模を広げられているのですか。それとも遊休地とか、今までのものを集約されているのですか。またどのような手法で少しずつ大規模にされているのでしょうか。

(農業振興課)

集落営農の場合は今、外から来られている方よりも、その中で後継者の方や兼業農家の方が皆さん集まって、組織体系を固めて大きくして、みんなでやろうという形で集約されている部分が多いと思います。市外からの新規就農者の方もいますが、大きな面積で野菜はなかなかできません。やはり規模が大きくなっているのは水稻で、皆様が共同で行っています。

(会長)

山田錦の栽培を辞められる方の土地を集約して、少しずつ大きくし維持しているのですね。

(農業振興課)

はい。

(会長)

ありがとうございます。他に質問ありませんか。

(委員)

9ページの三木市の取組みとして、有機農業を目指というところなのですが、この有機農業セミナーやイオンアグリの研修というのは、有機農業をしたいという方だけが、希望して受けるのですか。例えば、すぐに始めることはできないけれども、興味があるし、知っておきたい方も参加できるのでしょうか。

(農業振興課)

今日お配りしている2月10日のセミナーは2回目になります。昨年同じ頃に開催したセミナーにイオンアグリをお呼びして、興味ある方は誰でも参加できるという形式をとりました。結構人気があり、市内外から多くの方に参加いただきました。県職員の西村いつきさんが主に環境の話がされました。また、イオンアグリの取り組みについて話をさせていただきました。

イオンアグリの実習は、実際農業者が農場に行き、レクチャーを受けるものでした。これは主に就労されている方が、専門的なアドバイ

スを受け、今後、イオンアグリと連携を増やすにはどうしたらいいのかを議論していただきました。今回2月10日のセミナーについても、農業就労者の方だけではなくて、一般の方でも受け付けております。できれば年に1回、有機農業や環境にやさしい農業について、三木市内のイオンアグリや、コープのエコファームがどのような取り組みをされているのかを勉強する機会を設けたいと思います。

(会長)

今後、三木市で取り組みをされている有機農業セミナーや就農希望者への研修会は、毎年1回開催する考えですか。ある程度講習の希望者が増えるところまでを考えていますか。

(農業振興課)

基本的には年に2回、研修会等を設けたい。1つ目は環境に優しい農業を定義しておりまして、その中に有機も入ってきますが、まず市民の方、また市外の方についても特に制限を設けず、実施したい。2つ目は、就農に向けた取り組みで、実際に現場見学に行き、座学では習得できない部分を現場で学べるような形としたい。参加いただく対象者は、前者が一般、後者が農業就労者で検討しています。

(会長)

そういう方たちが増えていき、農業が先細りにならずに形を変えて環境に配慮した農業を三木市が進めて欲しいと思います。

次に前回アンケート内容を審議いただきました学校給食についての保護者向けのアンケート結果について事務局から報告いただきます。

事務局より「学校給食に関するアンケートの結果について」説明

(会長)

回答率が約30%ということで、保護者の方にたくさんの質問に、きちんと答えていただきました。また給食について関心を持ってくださり、よかったと感じました。質問等がありましたら、お願いします。

(委員)

13ページの総括の中で、今後、より安全安心な食材について検討していくという部分で、具体的にどのように検討されていくのか気になりました。例えば、有機農産物や無農薬というのは、やはりお金がかかるものです。有機農産物やオーガニックを活用していくため、野菜

や玉ねぎ等、給食のおかずによく使う野菜1種類からでも無農薬を取り入れていただきたい。アンケートの中でも、給食費が上がらなければ、有機農産物を取り入れて欲しいという意見が多かったので、年1回だけでも無農薬給食デーみたいな、給食が1日でもあれば、安心です。現状皆様満足されている方が9割と多い中で、無農薬であれば、なおよいという本音が垣間見えた感じがします。その中で、目に見える形で進めていけば、より保護者の方々もこちらを見てくださると思います。検討ということがどのような方向で考えておられるのかをお聞きしたいです。

(会長)

ご意見をいただきましてありがとうございます。有機農産物の使用については、後ほど審議していただきます。

先程の農業振興課の方の農業の現状のご説明、保護者の方の学校給食に関するアンケートの結果を踏まえ、審議を進めます。まず、一番として市内産食材の拡充について審議をしていきます。先程ご説明ありましたように、保護者の方のアンケートの結果では、学校給食の食材は「今のままでよい」というのが多数で、ついで国産、兵庫県産、市内産の食材を希望されているということです。三木市はすでに市内産野菜の使用の拡充を推進しています。市内産がない時は県産、国産を使用しているということについても、その認知度はまだ半分ぐらいですが、学校給食の食材について、アンケートの結果を聞かれて、どのように考えられますか。何かご意見がありましたらお願いいたします。有機野菜については次の議事で進めますので、まず市内産食材の拡充についてご意見やご感想をお願いします。

(委員)

今も三木市産のお米や野菜を使えるだけ、使っていただけで、ありがたいです。このまま進んでいただけたらよいと思います。農業をやる方が少し増えているという説明もありましたが、趣味の範囲でやっておられる方は多くあり、農業を生計、生業でやろうとする方は、なかなか三木市だけでなく他の地域でも難しいと思います。今、三木市で生産されて確実に入ってくる量を確保し、できるだけ範囲で、使っていたらと思います。

(会長)

今も確保できる範囲で市内産のものを使っていますが、このまま確

保して使っていくということですね。お米は100%三木市産、野菜は重量ベースで何%ですか。

(事務局)

重量ベースでは、4年度で27.9%でした。今年度は、昨年度、県のアドバイザーの方と生産者の調整会議の中で、品目が増やせるよう調整をしたところ、今年度、新たに冬瓜やかぼちゃ、きゅうりの品目が増えまして、今年度は4年度よりも、もう少し重量ベースの割合も高くなる予定です。

(会長)

冬瓜やかぼちゃ、きゅうりも市内産を増やしていただき、平成30年、20.9%だったのが令和4年度は27.9%まで重量ベースで増え、さらに令和5年度は増えるかもしれない。次年度に向けて増やしていけると認識してもよろしいでしょうか。

(事務局)

令和5年度に関しては増えますが、気象の問題もあるので、その先はどうなるのか分かりません。

(委員)

一品ずつでもいいので、少しずつでも増やしていくという方法はいかがでしょう。

(委員)

調理場でも市内産野菜を使うことに調理員たちも慣れてきているので、市内産野菜が届いた時はいつもよりたくさん土がついていたり、この間はほうれん草にたくさんの藁が挟まっていて処理にすごく時間がかかったりしました。しかし、それでも給食の時間に間に合うように安全に衛生に気をつけながら調理に使い、市内産野菜を給食に取り入れることには慣れてきています。できる範囲で使える野菜が1品でも増える機会があれば、私たちも取り入れていきたいと思っています。

(会長)

ホームページで「今日は市内産〇〇野菜を使用しました」ということが随時公表されているのでしょうか。時々給食日よりで、今月は〇〇を使用しましたという感じでしょうか。

(副会長)

子どもたちは教室に貼ってあるこんだてカレンダーで市内産であると認識しています。

(会長)

市内産を使っていることは親よりも、よく知っているのですね。

(委員)

私は毎日の給食の時間使う放送原稿を作っています。その日の給食の献立や食事のマナーについて等、数行で短いものですけどメッセージを発信しています。「今日は市内産のキャベツを使っています、お米を使っています」等必ず言うようにしています。

(会長)

目と耳と両方から入ってくるということですね。市内産の野菜等はサイズが不揃であったり、予定通りに納品されなかったりすることはないのでしょうか。

(委員)

時々ですが、市内産の野菜の数量が揃わず、市場のものを納品する場合もあります。

(会長)

1つずつ増やしていただけるというようなことはありがたいと思います。農業振興課や生産団体と調整し、市内産野菜を推進するため、市場価格との差額を市の方で補助をしていただいているので、今後も積極的に1品ずつでも増やしていく、活用していただけたらなと思います。

(事務局)

三木市では、市内の生産団体や農業振興課と調整しながら、給食に使用できる農作物を増やしていくような調整会議を開いています。市内産の拡充について、提案いただいた1品でも増やしていけるよう、努めていきたいと考えております。

(会長)

市内産野菜については補助していただき、少しでも増やしていただきたいです。

2番目に、有機野菜の使用について審議に移ります。農業振興課の説明ですと、三木市は農地がたくさんあるけれども、山田錦の耕作が中心になっているので水田が多く、収益性のある商品は、お米の次は豆・ぶどうでした。有機農産物の拡大についての話もありましたが、以前、この会議でも出ましたイオンアグリは有機農産物について、提供が可能という話を聞いています。イオンアグリの状況について事務局

から説明をお願いします。

(事務局)

前回もお話した内容になりますが、今後、有機農産物の活用にあたって、教育委員会としては慣行栽培も市内産の野菜も、農薬を使ったとしても適正適期に使い、基準を満たした食材であり、食の安全性は現在も確保できているものと考えています。

また、国や県は環境教育として有機農業を推進しています。市も環境負荷の少ない農業を学ぶ環境教育(SDGs)として、持続可能な農業を学ぶために有機農産物を学校給食に取り入れる等、有機農産物をどのように活用していくかを、検討いただきたいです。現在、市として、付加価値をつけて購入するのであれば、有機JAS認定等、第三者の認定があるものを使いたいと考えています。現在のところ、有機JAS認定を取得しているのが、口吉川町里脇にあるイオンアグリです。ここは2013年に開場され、面積が11haで、その中でハウスが28棟あります。2019年に有機JASを取得し、栽培を開始し、イオンも少しずつ有機コーナー、オーガニックコーナーが増えています。現在はイオンで販売されていますが、学校給食に提供することは可能だということをお聞きしています。

また、児童生徒に来てもらい農場見学をして、どのように育てているのか、農場体験も可能で、ぜひ来ていただきたいという話もされていました。場所は里脇のぶどう農園近くにございます。環境教育の一環として見学することも学びになると思い、ご紹介させていただきました。

(会長)

教育委員会としては、SDGs達成に向けた環境教育として、この有機農産物を学校給食に取り入れて、農場見学や様々な環境教育とともに、有機JASの認定を受けた食材を給食に提供することも検討するということでした。まず、有機農産物を取り入れるのであれば有機JAS認証を受けたものから始めてはどうかということでご紹介いただきました。アンケートでは、「保護者の負担がなければ、有機野菜については活用してほしい」が約半数でした。食材について、安全性ということが重要でありつつ、質問13で実際に今後、有機農産物を給食に取り入れた方がよいということで、給食費が上がっても取り入れてほしいが15.7%でした。委員のみなさまは、有機野菜の活用について

どのように考えていますか。

(副会長)

イオンアグリはイオンの子会社ですか。

(事務局)

イオングループの野菜を栽培し提供している農場になります。地元での雇用も多いです。

(副会長)

作ろうとしたら、やはりお金がかかるのでしょうか。大きい会社でないと難しいでしょう。

(事務局)

やはり認定にお金がかかるようです。

(副会長)

個人では難しいでしょうね。

先程、話もありましたが、お金は少し高くはなるとは思いますが、ぜひ1回でも有機農産物を出していただきたいと思います。

(副会長)

どのくらい高いですか。

(事務局)

大体2割から5割ぐらいは高くなるとは聞いています。

(会長)

それが市内産野菜であれば、同じような考え方ができるのでしょうか。市内産野菜の金額と慣行栽培との差額を市が負担いただけないでしょうか。有機野菜であっても、市内産の有機野菜を仕入れたら普通の野菜との差額を市が負担していただけるか、何かありますでしょうか。

(事務局)

現在も市内産と市場との差額は、補助していますが、有機野菜について、今後、前向きに検討していきます。国も県も有機への動きがありますので、有機農産物を使った場合に補助が使えるメニューがあり、活用しながら対応していきます。費用が2～5割高くなるかもしれませんが、1品からでも、有機農産物を使用していく、環境教育を教育の一環として進めていきます。先ほどご提案いただいた無農薬デーまではできないかもしれませんが、有機農産物を一品使いながら環境について考える給食ができると思います。

(委員)

同じ取り入れるのであれば継続しないと意味がないと思います。無理に頑張っこの日だけ入れて、来年からはできませんとなると、せっかくいいことしようとしているのに意味がなくなってしまうと思うので、最初は1年1回だけで実施してはどうですか。何も知らない人からみたら1回だけと思われるかもしれませんが、少しずつ少しずつ積み重ねてこの先ずっと有機農産物を取り入れていくことが継続できるよう1個ずつ取り入れられたらと思います。

市内産野菜を初めて給食で使い始めた時は、現場は抵抗がありました。先程も少し言いましたけど、限られた時間で、すごく厳しい衛生管理マニュアルの中、給食を作っていますので、少し野菜の納品時間が遅れただけでもバタバタします。

本当に大変なので、受け入れる側としても、少しでも抵抗がないように、市内産野菜を取り入れる時も、みんなで献立表を一生懸命見て、今まで使っていた種類や品種が違うため、作業は気をつけないといけない等、入念に打ち合わせをし、月1回ずつ取り入れていき、徐々に慣らしていきました。ですから、今は藁が付いたほうれん草でも調理員はパッと対応でき、安全に提供できます。

有機野菜等、何か新しいことを取り入れる時には、1個ずつ取り入れていけたらと思います。

(会長)

現場のお話を聞いて、やはり継続的なものにするために最初の1歩は慎重に十分検討が必要ですね。

令和6年度に環境教育の一環として、とりあえず一品、お話があったようにどのメニューの時なら取り入れやすいか等検討してから給食に提供するというごことをお願いしたいです。

(副会長)

有機農産物を購入するとすれば、イオンアグリですか。

(事務局)

有機JAS認定を取得しているイオンアグリになります。

(会長)

こだわりとしてはきちんと有機JASの認証を受けているところから有機農産物を仕入れて、まず一品でも入れるっていうことでよろしいですか。

(委員)

今の三木市の学校給食は安全で安心して子どもたちに食べてもらえる食材を提供できているということ、同時にPRをしてかないといけないと思います。今がよくないから、有機野菜を取り入れた等間違った話が出てきたらすごく嫌だなと思います。そこだけはきちんと、今も安全安心で、さらに加えて、環境教育ができるというメリットがあるということをお伝えしてもらいたいです。

(会長)

情報発信の仕方も難しいですね。言葉だけが独り歩きしないように、今の状態が衛生管理、食材等、十分安全だと伝えた上で、環境教育の一環として、有機野菜を一品でも取り入れていく主旨を上手に情報発信していただきたいと思います。

本日は2つの議題について、進めてまいりました。三木市の農業の状況について、学校給食に関するアンケート結果を参考にし、市内産食材の拡充と有機野菜の使用について審議しました。今後の取組として、一つ目は市内産食材を継続しこれからも拡充していくこと、二つ目は有機野菜を環境教育の一環として、来年度から一品でも取り入れていくということです。三木市は「すぐーる」で学校給食について発信し、まずはこのアンケートにお答えいただいたという感謝の気持ちと、今後みなさんのご意見を取り入れつつ、良い給食にしていきたいという思いです。

今年度の給食審議会は、本日で終わりになります。学校給食審議会の委員の任期は2年となりますので、委員のみなさまには引き続き、あと1年任期がありますので、来年度もご出席いただきますよう、よろしく願いいたします。

(事務局)

本日は慎重な審議をありがとうございました。今回、保護者のアンケートを初めて実施したのですが、今後の市や学校の取組の中で、特に力を入れてほしいことが、「食材の安全と、衛生管理」と「給食を通じた食育の充実」の意見が多くありました。審議会の中で答申いただきました三木市学校給食基本方針の4項目である美味しく安全安心な給食を提供する、食育を推進する、地産地消を促進する、あと郷土愛を育む献立を充実させるといった方針が、保護者の方も希望されているということが初めてアンケートにて分かりました。今後も給食は方針通

り進めていきたいと考えております。

今後のスケジュールですが、令和6年度は3回の開催を予定していますために次回は1回目の開催を6月頃に予定しています。今回審議いただきました有機野菜の使用等の方針について報告させていただきたいと考えております。

来年度の3回目の審議会で、学校給食の課題について、答申をいただくということをお願いしたいと思います。

(会長)

以上で本日の議事は終了しました。長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

(教育長)

今年度、最後の審議会でありますのでお礼を申し上げたいと思います。三木市の教育の基本方針は、未来を担う子どもたちの生き抜く力を育むということでございます。この生き抜く力を支えるのは、もう何と言っても食べることです。生きることは食べること、食べることは生きること。そのため、学校給食の充実を図るために今年度初めてこの審議会を立ち上げたところでございます。委員のみなさまには、去年の4月24日の第1回目から、本日まで5回にわたりまして慎重にご審議を重ねていただきました。本当にありがとうございます。今、事務局が申しあげましたように、第3回の審議会で答申をいただきまして、給食費の改定を伴う学校給食費徴収条例の改正を9月の三木市議会にて議決をしていただきました。保護者のみなさまには、学校を通じてお便りを出し、それから広報みきの1月号で、給食の改定についてお知らせをしたところです。

そして何よりも大切なのは、附帯意見をいただいているところです。給食費は上げさせていただいたのですが、保護者の負担が少しでも軽減されるように、国あるいは県の動向を注視しながら、何か活用できる支援策が出て参りましたら、必ず積極的に活用して保護者の皆様のご負担を少なくしたいという約束をしてまいりたいと思っております。

地産地消を促進していくには現場で頑張っていただかないといけませんが、給食は安全安心かつ美味しくなければなりません。

アンケートによりますと、全ての子どもたちが100%おいしいとは答えておりません。おいしい給食を将来にわたって安定的に供給できるように、これからも教育委員会、そして現場の栄養士、調理員と力

を合わせて、運営に務めてまいりたいと思っております。

来年度も審議会を重ねてまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

(副会長)

会長の水野様、はじめ委員の皆様、1年間本当ありがとうございました。基本的にやはり子どもが根本だと思うので、今年を土台にして来年度も子どもたちのためにもう一度しっかりと給食について考えたいと思います。本当にありがとうございました。